

2 育てるカウンセリングを生かした対話のある授業の実例

「響け！6西サウンド-『ロックマイソウル』『カノン』-」（第6学年）

（1）「思考力」とその育成に向かう対話

【単元で育成したい「思考力」】

『ロックマイソウル』『カノン』から想像した情景と結び付けながら、強弱や速度、音の重なりを自分の感じているクラスの雰囲気とふさわしくなるよう創意工夫する力

【「思考力」の育成に向かう対話】＜拡散型＞

クラスの雰囲気を表すために、強弱や速度、音の重なりをどのように変化させるか話し合う。

本単元では、明るく元気な感じの歌唱曲『ロックマイソウル』と静かで落ち着いた感じのリコーダー奏曲『カノン』の二つの曲の曲想を、強弱や速度、音の重なりをさまざまに変えながら、自分たちのクラスの雰囲気に合わせて表現できるようにすることをねらった。仲のよい自分たちのクラスの雰囲気を表すために、明るく元気な感じの『ロックマイソウル』を男女で呼びかけ合うように歌ったり、朝のゆったりとしたクラスの雰囲気を表せるように、静かで落ち着いた感じの『カノン』を一人ずつ音をつないで演奏したりする等、クラスの雰囲気と強弱や速度、音の重なりを関わらせながら表現を工夫していくのである。

自分の感じているクラスの雰囲気を表すために、強弱や速度、音の重なりをどのように変化させるか話し合う拡散型の対話を行った。そうすることで、互いの考えを知り、より思いや意図に合った表現の工夫について考えが広がり、上記「思考力」が育成されると考えた。上記対話を通して、強弱や速度、音の重なりが要素がクラスの雰囲気と結び付き、表現の工夫につながっていくと考えたのである。

（2）対話への支援

① 多様な考えが表出される授業構成

～複数の表現が可能な教材で、個々の考えを明確にする～

実態：子どもたちは、『ロックマイソウル』の歌詞や曲想から、強弱や速度を強くしたり速くしたりする等の工夫で満足し、それらを徐々に変化させることに気付きにくい。また、音の重なりを変化させることでさまざまな表現につながるということにも気付きにくい。

支援：強弱や速度が徐々に変化したり音の重なりがさまざまに変化したりする「ドレミの歌」を抜き出して聴かせたり、音の重なりの変化を拡大楽譜で確認したりした後、感じた様子を伝え合わせた。

② 育てるカウンセリングを生かした支援

ア 本単元内で直接行う支援

実態：本学級の子供たちは、Q-Uの結果やふだんの様子から、仲のよい友達との間では自由に話し合えるが、授業中や他の友達との間では自分の意見に自信がもてず、自分の考えをうまく伝えられていない様子が見られる。

支援：まず、自由にペアやグループになり*¹対話する時間を設定した。その後、4人程の小

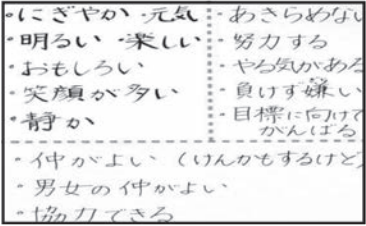

グループ*²で対話を行った。その際、話し合いのルールや手順を掲示し*³，発言力の強い子どもだけでなく全員が発言できるようにした。そうすることで，安心して話し合える雰囲気を高めていった（対話の技能・雰囲気）。

イ 本単元外での活動を想起・活用させる支援

実態：本学級の数名の子どもには，話し合いで自分の意見を否定されるのではないかと不安に感じ，発言しにくい様子が見られる。

支援：朝の活動で行った「ブレインストーミング」*⁴で，自分の考えを否定されることなく自由に発言することの心地よさを想起させるために，話し合いのルールの中に「否定的な意見を言わない」と明記し，掲示した（対話の雰囲気）。

（3）本実践における授業の実際

場面	授業づくり	実践の詳細
学習問題の確認	 <p>【表したいクラスの雰囲気】</p>	<p>子どもたちは前時に自分たちの歌声を聴いて，クラスの元気な様子は表せているけれど，その他の雰囲気は表しきれていないと感じた。そして，これまで学んできた強弱や速度，音の重なりを変化させて，より自分の感じているクラスの雰囲気を表そうという課題を見つけた。</p>
<p>6 西の雰囲気に合わせて，強弱や速度，音の重なりを変えよう</p>		
多様な考えの表出	<p>『ドレミの歌』を聴かせることにより，強弱や速度が徐々に変化しながら，さまざまに音の重なりが変化することに気付かせた。強弱や速度が徐々に変化している部分を抜き出して聴かせたり，音の重なりの変化を拡大楽譜で確認させたりした（授業構成）。</p>  <p>【歌う人がだんだんと増える例】</p>	<p>子どもたちは，歌う人がだんだんと増えていく部分と，いろいろな人が順に歌う部分を聴いて，感じた様子を伝え合った。</p> <p>そして，二つの歌い方を基に，以下のように感じた様子と自分が感じているクラスの雰囲気を結び付けていった。</p> <p>T：今のはどう変わっていたか分かるかな。</p> <p>C1：ドレミファソラシで人の声が変わっています。</p> <p>C2：速度はだんだん速くなって，強弱もだんだん強くなっています。</p> <p>C3：一人が一つの音を担当しています。</p> <p>T：順番に変わっているんだね。こんな風に歌うと，どんな感じが表せそうかな。</p> <p>C4：みんなの声が順に聴こえると，にぎやかで協力的な感じがします。</p> <p>そして，強弱や速度，音の重なりをどのように変化させるかワークシートに書き込み，クラスの</p>

「*」…101頁参照

多様な考えの表出

音の重なり②

【歌う人が順に変わる例】

雰囲気にもふさわしい表現へと工夫していった。

このようにすることで、「負けず嫌いな子が多いから少し遅くしたい。」や「個性的なところを、声を順に重ねて音の重なりで表したい。」等と、子どもたちは自分が感じているクラスの雰囲気にふさわしい表現を多様に考えていった。

ペア対話

まず、自由にペアで対話させ、自分の考えに自信をもって話せる雰囲気をつくった。その後、元の小グループで対話させることで、安心して話し合えるようにした（雰囲気）。

また、朝の活動「ブレインストーミング」で行った、どのような考えも認めるという経験を想起させ、話しやすい雰囲気をつくった（雰囲気）。

まず、自由にペアになって自分の感じているクラスの雰囲気に合わせた歌い方の工夫を紹介し合った。

自分の思いが伝わるように言い方を考えて話したり、相手に「いいね。」「おもしろいね。」と認められたりすることで、安心して話し合う雰囲気が感じられた。



【ペアを見つけて話し合う】

グループ対話

下の図のような、話し合いのルール・手順を掲示し、ルールを守って順番に話し合わせることで、対話の技能を高めた（技能）。

話し合いのルール・手順

- 全員が自分の意見を言う
- 相手の方を見てきく
- 否定的な意見を言わない
- 実際にやってみる→(感想・質問)

【話し合いのルール・手順】

先にペアで対話したことで、次の小グループでの対話にも自信をもって臨んでいる姿が見られた。また、ふだんは積極的に発言しない子どもが、自分から進んで紹介し始める姿も見られ、対話の雰囲気や技能の高まりが感じられた。



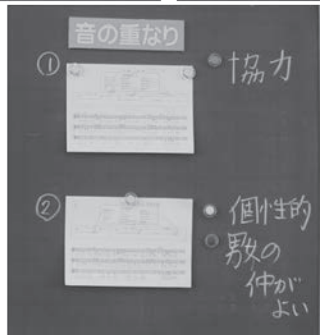
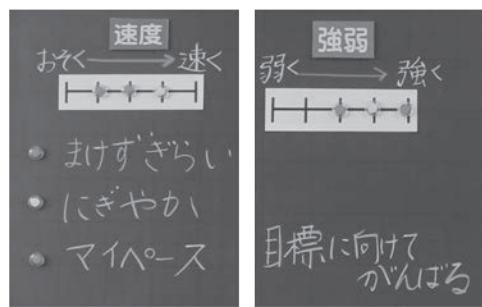
【グループで話し合う】

全体対話

全体対話において、歌い方の工夫が多様に出てきた。クラスのどんな雰囲気を表すために、どのような工夫をしようと考えたのかを聴き合い、板書にまとめた。その後、みんなで歌って確かめることで、発表者の考えを共有していった。

C5：負けず嫌いで粘り強い子が多いから少し遅く、強く歌うといいと思います。

C6：にぎやかなので少し速くして、目標に向けてがんばるので少し強く、個性的なので順



【工夫を共有化する板書】

に歌って音の重なりを出したいです。
 C7: (左の板書を見ながら) みんなマイペースなので速さも強さも真ん中で、1人とみんなまで交代に歌うといいです。
 C8: 男女の仲がよいので、男と女で交代に歌うといいと思います。

友達の考えを聴き、歌って確かめることで、「ぼくと同じにぎやかな雰囲気をも、強さではなく速さで表している。」や「男子と女子で交代に歌うと重なったときに仲のよい感じがする。」等といった感想が見られた。最初は、元気な様子を強さのみで考えていた子どもが、クラスの雰囲気とつながりながら速さや音の重なりを変化させ、より自分たちのクラスの雰囲気にふさわしい表現を工夫することができるようになった。

(4) 考察

① 成果

強弱や速度、音の重なりの変化に特徴のある部分を焦点化して聴き、感じた様子を伝え合うことで、子どもたちはそれらの要素をどう変化させれば自分の表したい雰囲気に近づくかを多様に見いだすことができた。また、対話の場面ではペアからグループ、全体へと段階を追って話し合うことで、対話への抵抗を減らし、自信をもって話し合いに参加し、互いの考えを共有しながら表現の工夫へとつないでいくことができていた。

子ども	授業開始時の考え	授業の終末での考え
i	・元気な様子を強く歌って表したい。	・少し速くしてにぎやかな様子を、また、強く歌って粘り強い感じを出したい。
ii	・速くして、明るい感じにしたい。	・少し速く、強くして、男子と女子で交代に歌い、仲のよい感じを表したい。

上記の子どもの様相から、i児はクラスの様子に合わせて強弱だけでなく速度を変化させることで、ii児は初めに考えていた雰囲気に合わせて友達の考えも取り入れながら、対話の前後で表現の工夫について考えが広がったことが見取れ、「思考力」の向上が見られたと考える。

② 課題

授業構成の支援では、感じた様子を伝え合う場面で、もう少しさまざまなクラスの様子と強弱や速度、音の重なりの変化をつなぎながら意見を膨らませておくべきだった。例えば、強弱や速度を徐々に変化させることで協力する感じや粘り強い感じを表したり、音の重なりを変化させることで仲のよい感じや個性的な感じを表したりする等とつなぎ、「だんだん強く」「強→弱→強」等の具体的な方法を例示しておくことで、さらに「思考力」が育成されたと考えられる。